



4
2981
4

壬辰 聖德太子 後光嚴院 崇光天皇の御子

遷幸一後... 崇光天皇の御子

癸巳二 甲午三 乙未四

正月... 二月北五日... 三月帝...

丙申 延文元 九月廿三日... 薨御

丁酉 二月北初の... 崇光天皇の御子

四月廿九日... 崇光天皇の御子

巳亥四 新古今の集と... 崇光天皇の御子

庚子五... 崇光天皇の御子

辛丑(康慶)元○三月廿日辰辰八十六町（康慶元年三月廿日辰辰八十六町）

○六月廿二日（六月廿二日）

○七月廿日（七月廿日）

○周防乃西の（周防乃西の）

被つて（被つて）

壬子(貞治)○壬午十一月（壬午十一月）

○七年四月（七年四月）

○七月（七月）

○初（初）

丁未六○十一月（十一月）

又（又）

戊申(應安)元年（應安元年）

南朝 長慶院 正平三年（長慶院 正平三年）

在位二十五年（在位二十五年）

○三月（三月）

位（位）

巳酉二○月（巳酉二月）

んと（んと）

庚戌三(南朝)建徳元

辛亥四

壬子

三(代)後圓融院 去（三(代)後圓融院 去）

五年

先（先）

南朝 文中元年 ○九月（文中元年 九月）

癸丑六○九月（癸丑六月 九月）

南朝 熈成王 ○八月（熈成王 八月）

て（て）

甲子七○月（甲子七月 月）

乙卯(永和)元(南朝)天授元年

丙辰二丁巳三 戊午四○三月（丙辰二丁巳三 戊午四 三月）

巳未(康暦)元○三月（巳未(康暦)元 三月）

○六月（六月）

庚申二○月（庚申二月 月）

後（後）

○六月（六月）

○新（新）

戊子五〇正月十日崇光院崩六十五

巳卯六〇九月相承の七を遷る

〇十二月新ひりいづそのころのそて侍

庚辰七 辛巳八〇のりせう

〇きこむのむらう堂とま新と

壬午九〇春とまがの夏大いり

冬大ゆん 癸未十〇六月相承の遷る

〇八月時陽和尙大眼より

四書集注ととりま

甲申十一 乙酉十二〇五月廿二日春日の祢本六千

本あまのりゆへもくてり

丙戌十三〇春天下まらん

丁亥十四〇正月廿六日

戊子十五〇二月六日ひがの

〇五月六日ちの軍を海入る

院と号と〇十二月大明の成祖

〇南

巳丑十六 庚子十七〇正月廿二日天地

辛卯十八〇九月新の

壬辰十九

癸巳 〇 稱光院 及小松院乃

甲午廿一 乙未廿二〇六月十三日ひり

滋

丙申廿三 丁酉廿四 戊戌廿五〇正月

日亥廿六〇七月大

庚子廿七〇かりの

辛丑廿八 壬寅廿九〇十月十二日

癸卯三十〇二月廿

〇四月

と号と

甲辰卅一〇四月十二日南帝

乙巳卅二〇二月廿七日将軍

と量

巳巳(寶徳)元○四月より新田大がらん

○同月廿九日義成其のち將軍よ佐徳

庚午二○四條らうらうの橋なり 辛未三 小倉川の

壬申(享徳)元○たんの海より新田をくくらう

たうら戸歩すまうめ赫悉乃二さあり

癸酉二○六月將軍義成もよとと政とあつこむ

甲戌三○一國平均の法政○奥列乃年々元

多徳乃律寺ゆのがら

乙亥(康正)元○十二月晦日乃西大がらん

○和別(藤原)入麻乃戸殿まやとよ入

丙子二○八月長崇孝院崩じハ十五とい

丁丑(長祿)元○五月十日さうさの池あぐ血のどく

○六月十八日本教寺才七代存如上人遷化六十一歳

山圓兼法印権大僧都中納言 元祿十丁丑まで 二百四十年

○七月廿一日吉田のやろきりうじく

戊寅二○正月廿九日乃日まびびづ

○同正月二日備月づづ○道灌江を流す

己卯三○六月廿九日乃日まびびづ

○多回乃新まんどうと

庚辰(寛正)元○正月一日二つの日まびびづ

○九月まひ山新地らうらうのま江の海まらり

かつまん○てうまん人まらり

辛巳二○天下のびびるまらり

壬午三○同月八日二つの日まびびづ

癸未四○正月一日二つの日まびびづ

あつつの日まびびづ○三日はく人あつて死

甲申五○四月新世考らふまらり

あつとらまんごんの申末とらんとおまらり

乙酉 後土御門院 及花ぞのあんの

丙戌(文正)元○十二月廿九日六がらん

丁亥(應仁)元○細川孫元と山名宗全とらうま

これをまにんれとら

戊子二○七月廿七日乃流す ○九月十日さうら

あつとらまらり

丁未 **長享元** ○九月のあつこふまきむらじ
將軍よりあつこふまきむらじ

戊申二 ○將軍よりあつこふまきむらじ
巳酉 **延徳元** ○三月のあつこふまきむらじ

○同廿六日將軍よりあつこふまきむらじ
薨じ。考。使院と号す

庚戌二 ○五月七日のあつこふまきむらじ
と。考。使院と号す ○三月のあつこふまきむらじ

○七月のあつこふまきむらじ
去年よりあつこふまきむらじ

辛亥三 ○五月のあつこふまきむらじ
壬子 **明應元** ○あつこふまきむらじ

甲子三 ○五月七日のあつこふまきむらじ
將軍よりあつこふまきむらじ

乙卯四 ○六月のあつこふまきむらじ
○本教の信院殿のあつこふまきむらじ

丙辰五 丁巳六 戊午七 ○あつこふまきむらじ
○あつこふまきむらじのあつこふまきむらじ

己未八 ○三月廿五日 本教寺身八代蓮如上人遷化
淨年八十五の信院院と号す 山兼壽法印

權大僧都中納言 元祿十丁丑と百九十八年
○三月のあつこふまきむらじ

○あつこふまきむらじのあつこふまきむらじ
徑をかりて板いとくろじ

庚申九 ○九月廿八日後土門院崩御考五十九
十一月のあつこふまきむらじ

辛酉 **夏** **後栢原院** 後土門院のあつこふまきむらじ
文龜 壬辰二 ○あつこふまきむらじ

○四月廿日大あつこふまきむらじ
○七月晦日連多野宗紙死す

癸亥三 ○あつこふまきむらじ
甲子 **永正元** ○天下のあつこふまきむらじ

乙丑二 丙子三 ○あつこふまきむらじ

中百

三

○九月かき山のもんがく七千本あり
丁卯四 戊辰五 ○新井のいぬねすま補と

○東大寺火 巳巳六 庚午七

○八月七日げん ○同廿日とくこのふ今四くづ

辛未八 ○二月卜納是俱辛未 ○八月とこのしやん

新井あつどのとく山とく豊と法住院と早と

同サにりらまとくふらん

壬申九 ○十月十九日世太神とみんしやう

癸酉十 ○三月將軍新尹とみを新道とあしむ

甲戌十一 乙亥十二 丙子十三 ○四月十二日あつれちやう

丁丑十四 戊子十五 ○四月五日げんかん中堂とみちやう

巳卯十六 庚辰十七 ○やを川とみつたふ尼とみこま

城とらつく

辛巳 大永元 ○十二月將軍新井の息義晴とみあ

ねまふ任と。同廿二日ひろね東よりなまとぶ

○三月新の大塔とみちやう 壬午二

癸未三 ○四月とこのねまふとみあつらひのふと豊と

恵林院と早と 甲申四 乙酉五

○二月二日本教寺才九代實如上人遷化

光兼大納言法下権大修理六十八歳

元禄十丁丑とく百七十二年

丙戌六 ○二月十六日石清水八まん官造とみ

とみ ○四月七日は板倉院崩と六十三とい

丁亥 七年 眞後奈良院 板倉院の

とみとみ 在位並と

○三月板倉と細川とみとく川とみ

元禄戊子元 ○九月ねまふとみは列とみまよ

あつらゆとみあつらとみとみとみとみとみ

巳丑二 ○系教とみんたのうとみとみとみとみ

とみとみとみとみとみとみとみとみとみ

かみとみとみとみとみとみとみとみとみ

そのとみとみとみとみとみとみとみとみ

とみとみとみとみとみとみとみとみ

とみとみとみとみとみとみとみとみ

壬辰天文元 ○三月とみとみとみとみとみ

○九月五日辰午のめん崩じ六十二
戊午 貞正親町院 辰午の院のま
貞正 在位二十九

○九月お軍よりてろね水窪とてろ川つてん
巳未二 庚申三〇四月廿日卯月の申入

○五月のぶさう元とてはく尾張をかきむ
辛酉四〇九月十日乙未種彦吉田信玄とほ中
信玄とてろ川つてん

壬戌五〇六月廿二日午のね宮をくしやう
癸亥六〇四月二日東封乃塔雷なるらる

甲子七〇えをろくやとてのまふとてむ
乙丑八〇五月廿一日辰午のね宮をくしやう
信玄とてろ川つてん

丁卯十〇十月廿四日卯月のやろくしやう
○十月十日乙未のね宮をくしやう

戊辰十〇二月新元といふお軍は但ど五月
○十月を昭せいお大將軍は但ど 巳巳十二
庚午元龜元〇小糸氏康を

辛未二〇九月十二日辰午の山王をくしやう
○つらつらつてあつてあつて 壬申三

癸酉天正元〇四月四日乙未のね宮を
○同月廿四日信玄をくしやう 〇八月のね宮をくしやう
甲戌二

○三月信長をくしやう東大寺乃菊倉待とてろ
○七月信長位を尾別とてろ 〇一内宮
乃一撥とてむ 〇一 乙亥三

丙子四〇四月大坂お軍に光佐とてろ
○五月信長をくしやう 〇同月廿一日のね宮をくしやう
本陣お軍のね宮とてむ 〇同月をくしやう
信玄とてろ川つてん

丁丑五〇九月廿九日乙未のね宮をくしやう
あつてあつて月をくしやう

○同月秀吉をくしやう 〇九月廿九日
戊子六〇五月十一日乙未のね宮をくしやう

○同月秀吉をくしやう 〇九月廿九日

○同月秀吉をくしやう 〇九月廿九日

○同月秀吉をくしやう 〇九月廿九日

○同月秀吉をくしやう 〇九月廿九日

○同月秀吉をくしやう 〇九月廿九日

巳卯七〇四月七日 家康公乃三月秀忠公侍酒
 野〇五月後公宗と日比宗と江州出立
 津敷さうとさうらん津屋さふ貞安新南
 備は揚屋佐とあけ毛のさよのり。さよ園
 とりら。後物はまねさうとらうめいさ
 とらうららあめと磨きうしてむらう園を
 後りさうとらうとらう園を今よとらう
 こととらう。世系後家よりとらうと
 庚辰八〇五月五日の六月十五日月とらう
 〇七月大坂おれまはり信長信長を信長
 よとらうとらうとらうとらうとらうとらう
 辛巳九〇正月秀忠より海軍乃海と後と
 〇癸卯あんとらう
 壬午十〇五月十五日の夜さしき乃さしき乃
 天よとらう〇六月二日信長明智光秀が
 けあよさしき乃さしき乃さしき乃
 二条乃さしき乃さしき乃
 〇あけらさしき乃さしき乃さしき乃

人を懐く〇同十二日明智光秀秀忠よ
 やらうれとらうとらうとらうとらうとらう
 癸未十二〇四月紫田揚家自害〇五月ひび
 大坂乃城さうとらう〇流球より使さう
 甲申十二〇さしき乃さしき乃
 乙酉十三〇三月秀忠根津乃と後と
 〇四月さしき乃さしき乃
 〇七月秀忠乃さしき乃
 〇十月廿九日大坂
 丙戌十四〇七月廿四日滅仁親王慶と湯と湯と湯と
 〇十一月七日正親町院はくめをさしき乃
 丁亥十五 後陽成院 陽成院乃さしき乃
 〇秀忠乃さしき乃
 〇松平乃さしき乃
 大本山誓願寺と年ととらうとらうとらうとらう
 天智

十月にアツクと云る庚戌の
十五年九月廿二日に仏にんま
しり



○洛東大佛殿

傳云天正十四年（一五八六）秀吉は此殿を創りて
 如も是より大佛を木とて造りて佛像を
 ありて之をたつたけし佛を祀りて方丈
 佛の御相なりとの事也又寺号を方廣寺と
 云はば像廣長元年閏七月の六日人々大佛
 一より秀吉をたつたけし佛の御見せりて
 牙の御徳と云る事也又つたけし佛を祀りて
 傳へし事と云る事也又つたけし佛を祀りて
 之に似たるもの御せんらうも入りて
 下なるもの御せんらうも入りて
 御せんらうも入りて
 御せんらうも入りて
 て秀吉は八月十八日薨逝の日は十七日卯時
 を言ふ事也又つたけし佛を祀りて
 像と相つたけし佛を祀りて
 年終と云る事也又つたけし佛を祀りて
 と云る事也又つたけし佛を祀りて
 先大佛と云る事也又つたけし佛を祀りて
 像を祀りて
 二年壬寅又つたけし佛を祀りて

己丑十七〇ひえ乃山多んもくもを修せせら

〇信乃城とらうく

庚子十八〇四月秀吉とらうくとせむいふ氏政の

〇くらのい健まりて知とらふ

辛卯十九〇六月廿八日あくれあうたさ此の

〇十二月廿八日秀次用ひは任ど秀吉の

壬辰〔文祿〕元〇三月ひでうとらうせんはとらひ

〇と井でうのうのりやむ

〇十月廿四日本教寺第十代顯如上人遷化五丁の

光佐直叙法眼法印權僧正は清代は東西の

元祿十丁丑を二百廿九年

癸巳二〇正月五日正親町院崩御七十歳泉涌寺三葬

〇四月九日ひでうの次男秀頼誕生

〇四月廿四日ひでうの使参りて知とらふ

甲午三〇秀吉伏見の城とらう〇七月東も落とら

し未四〇秀次がうらんて自害〇八月十日たむ落とら

丙申〔慶長〕元 家康公内大臣を任ず

〇かうらのいり登壇將軍とらうて和とら

〇天下をなすつら落し南七月廿月とらうて

〇信吉も毛とらうてとらうて四五す

丁酉二年〇八月十五日秀吉がんらうも乃如多と

系へひつちをうく大佐あまをなす

〇同月廿八日お軍勢暇遊去り居宿屋とら

戊戌三〇八月十七日若菜も乃如多とが國よへ

ちるふ同十八日附は秀吉薨とあふは

〇十月耳塚とらひ〇大佛あく

己亥四〇四月十八日秀吉と豊國大將和と

庚子五〇七月石田治ア少補二成ひやん三成誅せら

辛丑六 壬子七〇十二月官洛東大佐を失せら

癸卯八〇二月秀頼内大臣を任ず

〇三月家康公征夷大將軍を任せら

甲辰九〇七月十七日秀吉公のりくみ家康公

乙巳十〇秀忠公を大將軍を任せら

〇十月十五日南河ふとらうて八丈島の

丙午十二〇 朝鮮國より松毛と云偽りしる

和と云ふよしと敷方人の傳と云ふ

○武列江戸の城をこつてつらつらに進め

丁未十二〇 後府の城をこつ

○てつらんち使三人を貢と云ふ

戊申十三〇 三月の儀をこつての儀と云ふ

巳酉十四〇 三月四日寅角より月を涌きつ

うとづくがど

庚戌十五〇 おつりの宮城をこつて

とらてつらつらと云ふ國王を傳してつら

○九月廿日秀頼洛東大佛を再興

辛亥十六〇 三月廿日 後陽成院のつらつらを改仁親

まよゆりのつらつら ○同廿八日 家康公を秀頼と

系頼と合盟しつら加友法正池田輝政等と

壬子 後水尾院 法偉八政仁と云ふ

後水尾院 法偉八政仁と云ふ

後水尾院 法偉八政仁と云ふ

後水尾院 法偉八政仁と云ふ

後水尾院 法偉八政仁と云ふ

後水尾院 法偉八政仁と云ふ

○七月廿四日わかれち

癸丑十八 甲寅十九〇 四月十六日大仏殿の修せり

○九月より十月を畿内をいふ人并誦を

○十月五日本教寺第十一代教如上人遷化五十一歳

光壽權大僧都法印直叙法眼大僧正

元禄十丁丑を八十二年 ○同月丑百六拾七

乙卯元和元〇五月七日大坂の城をこつて神社伝説

左の家をこつて ○同八日夫れ葉を

丙辰二〇 四月十七日家康公御他界下野國

日光山に葬り勅し東照大権現と溢

元禄第十丁丑年を八十二年

丁巳三〇 五月一日わかれち

○八月廿日 湯成院崩潰し海寺小築

戊午四〇 八月廿日六角堂やうつ

同八日をもつりち

己未五〇 五月より六月まで毎夜東南の方より

あつりつらつら半角のつらつら

○彗星又東北の方よりあつりつらつら

庚申六〇 二月晦日又三月朔より系頼をこつ

つらつら

つらつら

つらつら

つらつら

つらつら

○九月十二日藤原朝平を始末す
辛酉七〇六月十八日秀忠を討つに相子入内
女侍の妻のら小中宮と成りし 壬戌八年

癸亥九〇七月十三日家光公御上洛

○同八月廿七日家光公征夷大将軍に任じらる

○十一月十九日女侍白を討つ

甲子寛永元 二月晦日改元

○二條大坂乃降滅修慶

乙丑二〇二月ひつろら山崎勅

丙寅三〇四月より八月をひでり。系中井の次

○九月六日帝二條乃城を行幸同十日

丁卯四〇正月廿日地震〇八月六日

○南都の三門をうらぶ

戊辰五〇新に仙洞をつくり

○あらし上鴨下がものあ社とを

己巳六〇九月十日洛東清水寺を

類火よぶ〇同月廿日いせ内官の正遷

○十月八日長尾院に位を

庚午 七年 寛代 本院 長尾院乃を女侍

河原公を太原源和子とす

東福門院と号し大相公源秀忠公乃

十四年 〇九月を山

〇同月十日

辛未八年〇二月廿日

〇三月廿日

丹乃

壬申九年〇正月廿四日征夷大将軍源秀忠公

他界

徳院殿と

法常寺と号し岡山を

癸酉十年〇正月九日洛東

○同月十日

○源家綱公征夷之將軍又傳下
壬辰五年○二月六日條あり

○九月十八日年号改元承應元年
癸巳二年○二月十三日條あり

○六月廿三日條あり
○八月条あり

○九月廿日條あり
○十月二日条あり

甲午三年○三月十日条あり
○五月廿五日今上皇帝誕生

○七月六日条あり
○九月廿日條あり

二十二歳十月十五日条あり
乙未 去年十月廿八日御即位

明曆 御律を良仁親王と号
と号と權守法方等の内を御即位八年

○四月廿二日条あり
○九月十二日条あり

山崎福寺をせんり
丙申二○正月廿三日条あり

丁酉三○正月十八日十九日江戸大火あり
火をわらうと大に五百余町やけ死する

人をもとれど死體を休川よりつむ死人の
かめよとて回教院と号す

戊戌 元治元年
○正月十一日又廿一日大火

○七月廿五日日本教寺第十二代宣如上人遷化
光從直叙法眼法印推大僧都大僧正

元禄十丁丑キセ三十九年
九月大賑あり日本へ加勢と云

○十一月の西宮多し
己亥二年○二月廿日条あり

六町家あり
○四月八日条あり

○六月七日条あり
庚子三年○五月条あり

○五月条あり

○六月大坂乃城多しを軍へのみりおらそ
つらきとあらねしをいふにうきたわれと人
かされ死と 辛丑四年

○五月十日自たりあき千やうのちあきし所家
火よとふ○四月廿八日自年及元
壬寅寛文二年○三月六日より廿日を相日と
あうくしてぬりて

○五月朔日大げん五条乃ち指くらひ落れ本
盤くられはあき死と○六月十二日あ
くおいよりほこまといふとあられ死とる
○十月大隅乃ちふけん海あられ隆とる

癸卯 皇三 仙洞 御津ハ鐵仁とすも。信
三年 尾院乃ち才十二乃ちもとす
母ハ新度義門院ニ号と。國元大基基音ハ
乃ち洗ぬるり浮位とすも北三年

○正月廿六日信西院はくくもとゆりり
○同廿九日仙洞女院東宮は清事
○四月廿日將軍家日光山は信

○同廿七日御即位○五月廿日將軍家天下
よとていふとあけい

甲辰四年○四月八日洛東大坂乃ち銅像を
壊すと木像はあきり作ら

○八月廿日あきのうら木ゆきとあきふ
ふゆきとあき使を法社まつら

○九月十六日いせ川のふのあきとて人あき死
○十月廿日午方よあき月とてあき

乙巳五年○正月廿日大坂乃ち天の雷火とてあき
○六月廿日遷す○聖寺社はあきり

あきあき○あきとらう三十三所の
あきとんとあきあき○あき布乃ちあきと

あきあきとあきあきと○七月二十日あき
あきはあきあきと○あきあきとあきあき

西平六年○三月日皇宗石更をば乃ち傷死と
○五月廿日江なひりあきあきとあきあき
あきあきとあきあきと
○洛東大坂乃ち甲乙をばあきあきとあきあき

丁未七年○二月十二日あるの二月堂あるや
かきつけ給ひてして便り申すまじき
世人も多しと云ふをいふ事なる

○はのらふ多田云々

戊申八年○正月白雲ありあわつて

ら梅乃とて○二月一日又四月六日江戸大

光寺の御家大寺とて○ははひたり

巳酉九年○將軍宿をいへて三月十日

百日のあつて河津川京又少神の七本松あり

あつて法乃ひんあをあつて張とて

あつて○二月四日あつてのうらあつて

○三月十一日あつてあつてあつて

○七月十日天狗屋あつてあつて

○九月九日廿八日行勢あつてあつて

○十一月一日あつてあつてあつて

○同廿一日あつてあつてあつて

系乃房子御入

○八月廿三日あつてあつてあつて

同はあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

延寶元年 甲寅二年 ○二月廿六日の夜

甲寅同年○四月十日畿内近國洪多から川に
わて川あられおこ二条入大橋くつらるる
○六月十日洛中洛外大懸なる南のつらり
らげのり西のたかろりり里おびらりり
隆大をさ奉るり。きよあろうまにりり
く産をうりらる

○同月十日五畿内よりふらふらあつちあつち
かれ死とう人馬うごちる

乙卯三年○天下とまらん三月より五月まで水害の
七本松と宇奈川よりあつちあつちあつちあつち
粥饅をばねのまらる

○九月三日ゆきみ津延き

○十月十五日民家よりあつちあつち本院よりびら
公家大寺あつちあつちと帝ひて山首より
聖日あつち

丙辰四年○三月石ころらんとらんあつちあつち
○夏法國をさるりりり三條五條の大橋

くらららるる○十一月廿六日の春仙洞女院の

あつちあつちあつち同日同村江のたつち

丁巳五○春仙洞女院あつちあつちあつちあつち

○あつちあつちあつちあつち

戊午六年○夏たえあつちあつちあつちあつち
あつちあつちあつちあつち

○六月十五日女院崩落同月廿六日あつちあつち
あつちあつち東福門院とあつちあつち

○九月十四日たる額綱重慶

○九月十日あつちあつちあつちあつちあつち
生會あつちあつちあつちあつちあつち

○夏西のあつちあつちあつちあつちあつち

○十一月十五日洛東よりあつちあつちあつちあつち
日菜七年○正月廿五日上下あつちあつちあつちあつち
あつちあつちあつちあつちあつち

○三月洛あつちあつちあつちあつちあつち

○四月三日あつちあつち因幡堂あつちあつちあつち

あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち
あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

舎療病院乃不きりて、
雕刻一ま佛あり。天徳三年、
行年、いさむら由一官、
ひま病、
く。通國、
賢あり、
いゆしとけ、
海産をさぐる、
し。これと、
所如、
中界、
計と、
言、

同七年○五月、
○六月、
庚申八○正月、
春秋八十九、
忌洛、

は、

○四月、

○四月、

○五月、

○八月、

○同日、

○同月、

○十月、

二十、

辛酉、

右近衛乃大将は任じ給ふ○同月江戸幕府
の川岸ひらけふ○九月井伊将兵衛上使と
しつゝ入洛とあり○十月十三日豊後一人二百
軒忌本末とありありとあり

○十一月年号改元(天和元年)

○同月廿日江戸は田之保より火あてて其の辻
辻までつゞく大小名四十余とあり

○同月廿五日町人浄救米三百俵救済

○十二月十三日西の世田谷とあり

壬戌二年○二月とあり徳川家康死す

○四月に世田谷とあり○同月八幡の僧坊焼

○將軍命とあり徳川家康とあり

○三月とあり江戸幕府とあり

○赤い身肉大疫病とあり

○五月とあり徳川家康とあり

○吉原失火とあり徳川家康とあり

○三月とあり江戸幕府とあり

○七月十三日徳川家康の御成敗

○八月とあり徳川家康とあり

○十二月廿八日江戸幕府とあり

癸亥三年○正月朔日江戸大板焼

○四月五日日光山火事

○六月將軍乃侍令嗣 徳松君御遊去

○江戸大火り○六月とあり徳川家康とあり

○七月とあり徳川家康とあり

○八月とあり徳川家康とあり

○九月とあり徳川家康とあり

○十月とあり徳川家康とあり

○十一月とあり徳川家康とあり

○十二月五日江戸幕府

甲子(貞享)○正月三日いん山とあり

○三月廿一日改元(貞享)

○三月廿一日改元(貞享)

○三月廿一日改元(貞享)

甲子同年○三月廿二日東寺（東大寺）に火災あり
五十年忌と修（修葺）○四月五日洛陽華堂の
うら町より火を起し華堂より火を起し
竹やぶの修葺東之の修葺を起し
ふたりの館（館）より火を起し

○十月二十九日詔し舊曆と停め新曆を
天下に頒つ貞享曆と号す

平乙丑二年○二月廿二日の夜流星うら町より
いあの方より起る。そのひかり數百里とて
あざざとてあまをありけり

○同二月廿二日の夜新院崩し三月七日
ゆり寺の葬儀後西院と溢（溢）す

○五月廿二日後西院の母寺西院慶徳同
月泉涌寺の葬儀逢春門院と溢（溢）す

丙寅三年○二月廿二日よりありて雷が
所にあつた○四月一日の夜洛陽二条白山より
火を起し洛陽軒（軒）よりあり○六月三日の夜より
やう上洛陽の社（社）よりあり

○同二十七日ふんごりふ依依乃（依依乃）氏（氏）の
中よりありふんごりふ依依乃（依依乃）氏（氏）の
と一尺七寸の依依乃（依依乃）氏（氏）の
る同明方曆丁酉廿五年赤夏吉日庭塔
本里参政王叔果同妻陳氏塔師とす

○九月十七日より廿三日の夜後光明院
廿三年忌の淨蓮の夜ありとていふとて
おのゝ花八幡と修（修葺）す

○十月十八日（十月十八日）の夜ありとていふとて
丁卯四年○正月春官（春官）登裏へ行啓

○同月廿三日清元服

○三月廿九日天皇（天皇）御讓位 太平（太平）御即位

○四月廿六日清元服 ○五月一日將軍（將軍）所代
御即位肥後（肥後）赤月（赤月）清元（清元）御即位

禁裏（禁裏）攝本院（本院）様仙洞（仙洞）様女院（女院）様御即位
○六月に列る心ありとていふとて

○七月廿五日

○八月廿五日

○九月八日

○十月廿五日

○十二月晦日江列ありひかり

癸酉六年○正月十四日ありひかり

○二月二日ありひかり

○同八日大伴ありひかり

○同月 移りありひかり

○三月十七日ありひかり

○四月九日朝観の行事

○五月九日日光寺門跡一 吊親王公辨浄入活

○同月廿日大西町の町敷三十余町

○六月真如堂を洛東へうつり

は堂のありひかり

縁起云 鈴聲山真正極樂寺と号す

真如堂を移りありひかり

乃浮作りありひかり

永貞二年ありひかり

つげありひかり

終りとありひかり

任公とありひかり

かきとありひかり

最上のありひかり

に松木千本ありひかり

るありひかり

本をありひかり

ありひかり

又にありひかり

年三月廿六日ありひかり

ありひかり

ありひかり

ありひかり

ありひかり

ありひかり

ありひかり

ありひかり

ありひかり

ありひかり

ありひかり

〇三月のく階位をうまをせしむるの作儀
〇二月初年北日多修の修集本山の修り

〇同月東地蔵くらく寺遠西寺を修すを
同落承へうははるの修修くう川のひへん

うらうら 東中谷の相修寺を修すうらま日修
おはる修くく修修の修修の修修を東

中修と修しあはるの修修くくくくくくくく
修修くくくくくくくくくくくくくくくく

〇七月光る修修くくくくくくくくくくくく
〇八月江列せうりく修修の修修修修

〇九月のくくくくくくくくくくくくくく
〇十月十日は乃くくくくくくくくくくく

やうら〇同月光五日大坂天神くくくくく
とくくくくくくくくくくくくくくく

甲戌七年〇四月中乃西日かた乃あつひまうり中
修修くくくくくくくくくくくくくくく

修修くくくくくくくくくくくくくくく
〇四月十日より百日乃くくくくくくく

〇五月のくくくくくくくくくくくくくく
〇五月のくくくくくくくくくくくくく

〇五月生日本修修修修修修修修修修修修
〇六月光る修修くくくくくくくくくく

あまのくくくくくくくくくくくくくく
大坂天王寺くくくくくくくくく

〇十月洛南 指荷乃くくくくくくくく
乙亥六年〇二月八日江戸西谷よりくく

くくくくくくくくくくくくくくくく
〇二月播磨岡山 修修くくくくく

号を賜ふ同四月三日二十三回忌
〇三月洛東くくくくくくくくく

〇三月洛東くくくくくくくくくくく
〇三月洛東くくくくくくくくく

〇三月洛東くくくくくくくくくくく
〇三月洛東くくくくくくくくく

食料のあらう

丙子九年○古金銀と改ち新とせらる

○夏金部乃心蔵屋とせらる

○二月東本願寺の阿弥陀堂内陣とせらる

金とせらる

○十月十日本院崩御同廿六日泉涌寺

なる明正院と号せ

丁丑年○二月十日勅令とて浄土宗乃先祖法

は圓光大師とせらる

○二月らくろし押山修持のせれ馬より必

てせあより三千石ありや

○二月十五日あり甘河屋は自安てりせめ

は入道同二十七日中務省上京

○十月江戸大か

○工月廿五日格別天は必

○冬酒屋乃を教はわく

○同二月十五日より東福寺れい

○同日より山科の山福屋る二

○同二月大坂はきい

同干二百次山大出りの二月四日

ふまの系執者入仏五月廿八日

○二月十五日より名か

同月令限の

○四月八日よりは初ら

○六月九日系執者

○九月中旬のは

○九月成才の二月

弟教大の番番

○十月二十日

戊寅十年二月大和の

大和系とせん

三月後東

三月の山

三月の

三月の

三月の

三月の

○二月六日より洛陽湯の
寺の東あたりにあるこの地蔵山町を
くせいの祝をさす也

○二月寺町にやうて堂造りせむる
のたう八月より四月八日まで茶師の儀を

○三月十五日三夜をわらふのたうて方見
同あひらあひらの思をせんる方日ある

同廿五日ありて口津の坂五ふ日ある

○四月六日より和而矢田の地蔵をふよて
ふいせむ

○三月廿二日より盛東をんて寺のあひ
逆縁をさくさぬまのまたんまうぬん
うひき弘は大師のまあふいせ

○寅九月朔日より卯の三月のまて丹波山
が岩大をさる火の儀番をよま

○九月は上野の山を儀がまはなれよ
松平さつまのまあり

○同月本奉平侍さくくく流の儀を
くん本さうのま白らん造り

○九月初菊湯をさくのかく上野をよま
○同日四つ附をいせ火より新儀をさく町が
火をよま四町をよま三里余平も町を相して
焼く也

○十月は火をいせ石町三町目をあたるよて
北町余をよま余つくと儀をよま

日本格をいせあり分るよま三百人といり
は中二をわけ若し御公儀へは儀をよま

米二万俵はよまゆり内二子俵八町寺
も借あり八町中の家も口をよま十五

俵ありは儀借をよま惣町板世町余米を
巳卯十二年四月四日火をいせ日本格計店を

火を神田入つて切までゆけとあるよま十五町
をよま廿七八町益の八つ附あり

○三月十五日下町万平方日ある

○五月は袋茶の天ひんわりとらふ

○三月十八日洛陽至地さう五十日の
るの候を同廿一日六強さう候あり

○八月中旬より去れ堂地つぎ始る

○九月十日より山登りて改修を一代終る

○同月大坂津の番や路に新池ひたり

癸未十六年○正月十七日山登りて寶寺靈り
坊ののこ樵のこくも用候

○三月廿八日ひり山東に於て堂供中

○三月中旬大坂つらりり足坂町西町
千日前へ移り

○四月十六日丹波森山大火あり

○八月十六日洛陽ふさ去れ堂ひ移り

○九月中旬西塚の竹や町九田町二町の
寺町えまの堂の竹ひけり

○十一月十八日ありま火あて焼くを焼
横一里去り二里

○土月廿二日夜八つ時より廿三日昼分
まて江戸上州相州小田原箱根大地

震家揺つれ人あまき揺るす

房州二里よりあまき揺る人あまき揺る

同時ふ大田系大たうては候その外
町あまき揺るあまき揺る

あまき揺る○同廿九日江戸小石川よりあまき
かひかひけりあまき揺る中えん

あまき揺るそれより風より湯湯天神明神
聖堂を町日本松切柳系張系あま

揺りゆけりあまき揺るあまき揺る海
あまき揺るあまき揺るあまき揺る

甲申十七年○二月中旬洛陽ひり山登り
うてか州白山權らんみ十日のち同候

○三月朔日より内宮より泉ふす
四里十八町新川はるあまき揺るあまき
揺る奉行

○三月十五日京より町大雲院三条大橋
法林より下地靈の浦寺性蓮寺万日向
○四月七日寶永年号改らん

くんのまほひひし...
○五月江戸川獲のり○同月大坂落のり
中々新橋寺四丁目...
地蔵の体○同生...
開帳○同生...

○大坂一心寺四丁目...

六月廿二日... 桂尚院様兼所増上寺...

八月晦日... 六月廿二日...

大坂ある○同月下... 七月...

○七月... 〇七月...

〇七月... 〇七月...

〇七月... 〇七月...

〇七月... 〇七月...

〇七月... 〇七月...

〇七月... 〇七月...

〇七月... 〇七月...

〇七月... 〇七月...

〇七月... 〇七月...

なまやと信海院より... 〇十月四日

の扱は... 〇十月四日

〇十月四日... 〇十月四日

〇十月四日... 〇十月四日

〇十月四日... 〇十月四日

〇十月四日... 〇十月四日

〇十月四日... 〇十月四日

〇十月四日... 〇十月四日

〇十月四日... 〇十月四日

〇十月四日... 〇十月四日

〇十月四日... 〇十月四日

〇十月四日... 〇十月四日

〇十月四日... 〇十月四日

〇十月四日... 〇十月四日

〇十月四日... 〇十月四日

〇十月四日... 〇十月四日

〇十月四日... 〇十月四日

〇十月四日... 〇十月四日

〇十月四日... 〇十月四日

卯拜ふらり。○三月十六日、奈世のち、方日さくら
 ○同日奈世奈下町がぐら、方日廻向。○三月七日、
 六月十八日、江の石山寺の法。○四月廿五日、清光の
 こと、院、て、ち、氏、の、軍、二、百、五、十、年、忌、と、ち、ま、ふ。
 五月廿五日、組皇大神宮、か、ち、り、の、ま、り、が、り、て、か、
 ○六月十二日、岡の雲、兼、ら、て、院、一、の、所、を、日、御、座、
 ざり。○同廿二日、位、位、柱、尚、院、様、御、三、面、品、を、
 ち、ま、ら、り。○同月、系、ね、て、ど、び、く、す、と、ち、ま、ふ、を、
 こ、ら、つ、ら、り。○同月、十七日、より、系、な、ら、つ、ら、り、を、
 ○同月、日光、の、の、り、上、り、を、ま、ね、ら、つ、ら、り、を、
 寄、宿、さ、ら、り。○七月十日、せ、の、江、江、の、城、西、の、丸、を、
 家、千、代、君、様、御、延、生、の、ま、り、す、ゆ、長、久、方、に、歳。○
 同月十九日、伊、勢、あ、り、り、の、と、ち、ま、ふ、大、風。○七月、廿、
 日、の、大、目、と、東、本、教、寺、宜、如、土、人、と、ち、ま、ふ、の、殿、
 五、年、忌、と、ち、ま、ふ。○八月、廿、日、江、方、も、け、の、格、ら、
 り、て、て、て、四、五、町、長、二、十、町、を、り、や、ら、り。○八月、
 林、裏、と、ち、ま、ふ、様、御、殿、御、給、り、ら、り。○八月、廿、日、
 洛、西、七、条、と、ち、ま、ふ、村、を、り、さ、ら、り、す、ま、ら、り。○

九月、西公孫大通寺

六、て、王、指、沢、の、ま、り、
 と、ち、ま、り、ら、西、公、孫、の、の、こ、り、を、ま、り、て、れ、ば、ひ、也、
 う、ま、り、興、と、ち、ま、ふ、の、り、ら、り、九月、廿、日、教、院、御、延、
 西、公、孫、同、日、本、社、ま、ま、り、あ、り、て、あ、り、ま、り、
 の、り、よ、ま、り、ま、り、ら、り、水、と、ち、ま、ふ、の、り、の、り、と、
 ち、ま、り、○八月、廿、日、奈、内、伊、勢、大、風。○九月、廿、日、
 家、千、代、君、様、御、延、生、通、院、御、延、生、○十月、廿、日、下、
 別、の、地、表、奈、内、南、海、を、ま、り、と、ち、ま、ふ、別、列、紀、列、を、列、
 法、列、が、ひ、と、ち、ま、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、
 ま、り、と、ち、ま、り、ま、り、ら、り、ま、り、ら、り、ま、り、ら、り、
 死、ぬ、ぬ、と、ち、ま、り、ま、り、ら、り、○十月、廿、日、午、の、下、
 別、の、地、表、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、○十月、廿、日、
 軍、令、の、振、り、す、ま、り、ら、り、の、方、ら、り、ゆ、り、ゆ、り、
 あ、り、ま、り、あ、り、ま、り、ひ、と、ち、ま、り、ま、り、の、り、と、ち、ま、り、
 砂、り、ら、り、と、ち、ま、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、廿、四、日、
 天、降、目、の、り、と、ち、ま、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、○廿、八、日、六、日、天、
 下、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、ゆ、り、廿、八、日、ひ、り、
 下、り、例、植、木、天、降、目、延、暦、十九、年、三月、廿、四、日、

四月十八日と今年のごとくやつる又 徳和天皇
貞観六年三月二十日余やつる○十月法西報乳
の西報後いやく

戊子宝永五年国正月 東宮御殿小普信次
二月十日御後徒同十六日迄同廿四日行徒同廿
七日迄同○廿六日 上使くして松平後徳将上
系同廿九日迄同○三月八日午下初より系初火
食油小治西あひのぐ小治下下西側二彩目より
火おけり坤より風をひく次よりおけり
禁裏炎上しそお七浦雨を家をぬす四彩これ
より下かき炎上して海合の社炎上并に在り
る余やつる愈らうて御くは焼下り九日の未
下刻より油小治二系より火とまり○方角油
小治西を町までやけとれり又すらうの上長三
町西を丸焼け内裏の内も町西今お川の三下
とせれり焼下りも町西二系と油と東河系切
やけち断二系下東側を西がく焼下り焼下二系
下二下月の西側分一町西は二系と町とやけ

但西系通の火がどかこの小治西宮町とまら
共く焼たて業師通の町と二角通の西洞院も
二系通の油小治して焼面九系町敷四百拾七町
家敷も方二百又まおち敷平又ま社敷分
所と云○同月十日迄東くうをいあつる家敷
九千二彩○同十日のち東九系村でつる家敷六
拾二彩○四月十日迄東くう田のこく焼下り社
別系を一三月十八日迄東くうをいあつる家敷
十彩○同月十日迄東くうをいあつる家敷○四月
久世村茂王控祝の焼○同月東のまらして
の列多かたの赤とるをいあつる焼下りのまら
下海治東の焼下り方目のまらしてつひ○同月
松の尾の焼下りのまらして天念佛の焼下り方
まらして方目のまらして 禁裏炎上はりらん
おきつひ○三月末より四月は動りて系初
ひかろの焼下りはすすつてのまらしてつひ
ふまのまらして○四月系初は初この町度三
つては焼下り焼下り焼下り焼下り焼下り

とらと夫婦小池遊言会より本願院(用く)○
五月内侍所の内より在り兼法成○同月初て
寶永通寶の大徳法(通)より通(通)より通(通)より通(通)
○五月より冬迄(通)より大人小児(通)より(通)より(通)より
づらよ○同月十日招の屋(通)より行(通)より○同月
十日(通)より(通)より行(通)より○同月廿八日(通)より(通)より
如(通)より(通)より(通)より○六月四日(通)より(通)より(通)より
ち(通)より(通)より○六月廿二日(通)より(通)より○七月二日(通)より(通)より
より酒の割と大風(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より
系(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より
振(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より
ぐ(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より
同月廿七日(通)より(通)より○七月 林(通)より(通)より(通)より(通)より
始(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より
坐(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より
坐(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より
男(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より
建(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より

喜山下(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より
ら(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より
多(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より
ヶ(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より
但(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より
あ(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より
浄(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より
水(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より
町(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より
式(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より
海(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より
も(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より
○八月一日(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より
地(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より
別(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より
と(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より
答(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より
系(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より(通)より

別種念光時方日也。○四月三日乙未日
是江宮源川八幡宮御去禱者并室如の儀。○五
月日持別後遷宮。○同月廿日源東本宮に於て
親皇御入の廂所源系室塔とより虎云引
○六月日 將軍宣下る御上使并御探訪
殿源川孝子と及友人上京。○同月十日
仙洞御所御遷宮後遷宮後徙。○同月廿日卯刻
今上皇帝御遷位。○同月廿三日近湯岡白岩左大臣
家照公持政任。○同月廿四日辰刻 帝布衣始
○七月日 新院御所御遷宮後徙。○同月廿日
日大風浪海上の船あり多く損。○同月廿日
より九月十七日乙未日向院にて洛陽法苑院
後不動并室如の儀。○同月十八日秋元但守加菜於
大坂見分。○同月十九日華堂親香の儀。○同月廿日
禁裏様御遷宮棟上。○八月廿日丹波後於九鬼寺
守乃奥諸君上京。○同月朔の白と多。○九
月日御勢外宮。○同月廿五日内宮。○九
○同月廿日洛妙寺願基開山四師三百五十年忌

法夏。○同月廿日自洛東大谷西中然る廂。○
御堂とま。○同月廿六日南於春日。○
○同月廿七日自遷宮。○同月廿八日十月四日まで
洛東本宮とて持別後。○同月廿八日八月廿
二日より九月廿日と大坂にて儀。○同月廿日
同儀。○十月二日江戸御城より千枚分銅あり。○同
十日水戸中將有逝去。○同月廿日近湯岡太閤基照公
太政大臣任。○今年六十二歳。○十二月一日
大將軍御本丸渡御。○同月廿日乙未子年以前
御遷宮の科人御赦免。○同月
禁裏様御遷宮成就十六日午五刻。 御遷宮
鳳輦にて御相雲客供奉。○同月 御遷宮の
時刻より二羽禁衣の上より舞小の方あり
○十二月十七日壬午十四代帝

新院御所様崩御御寶葬三十五

庚寅 皇表 今上白皇帝 御諱慶仁
寶永七

御寶葬十 御寶葬萬萬歳

新院第六皇子

神武元丙辰年より今年と二千三百七十五年

庚寅(寶永七年)○正月十日 新院御所様

御尊玉降 廿二日 御所様御

賜御書号 東山院様と申せり ○去月十二月

廿九日 當今様 御母后賀子 薨御 壽

三十五當年寅正月廿三日 廬山寺に葬と

為三月廿六日 後二位准后 崇賢門院

○二月十七日 公角堂新とあり ○二月十九日

廿二日と淨土宗四ヶ本も御所様御 ○二月廿八日

より四月廿七日と洛東丸山にて竹生湯あり

閑帳 ○二月廿七日と下野七右衛門雲火消上系

○二月市橋下迄あり 京極火消役と上系 ○二月

廿七日と二月廿六日と大坂東本町地つとあり

○二月廿七日と四月二日と堺位 宝物とあり ○二月

十九日と廿四日と江戸角田川本町より梅あり

九十七年と二年忌廿六日大念仏あり ○二月

廿八日と三月廿八日と江戸川八幡宮に地あり

て奥州岩城より 多眼の阿弥陀とあり 地あり

後宴の親を是度の新勅あり ○三月廿日

より五月十六日と江戸川公初とあり あり

才天菰包のほろも 多田満仲軍陣守あり

千子親とあり 月お初とあり 昇玉あり ○三月廿

より洛東永親堂あり あり あり ○三月廿

三月廿日と四月廿日とあり あり あり ○三月廿

西山よりあり ○三月廿日と三月廿日

と長山 齒佛の伝説あり ○三月廿日

中官御所様院号あり あり あり ○三月廿日

新文院様あり あり あり ○三月廿日

中院内大臣通茂公逝去あり あり ○四月十五日

田中豊光院方あり ○四月廿四日と六月廿三日

累あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり

圓光東漸大師と贈号有宣命使平松少
 納言殿○同廿二日公卿著座御導師は
 若流法親也○二月一日御即位上夜攝原
 式部大輔殿御上系を介法大行方以上便有○同
 月上立賣通聖天國帳○同廿二日和州法隆寺兩
 帳○二月三日分江州長命寺親老於東山來書
 帳○同月近衛家御公大政大臣任○同八月
 一江洲石山寺兩帳○同十八日分親老上人四百平
 年忌御法要也○同月後列志願也親老於誓於
 ちのす子の帳○同七日 京極宮様薨去○同十五日
 より五月十五日と於江戶德泉寺梅の母七百二十
 三年其廻向○同十八日分江戶土山田村將軍於江戶
 清草の帳○四月八日大坂皇宮分出入新断
 跡をりを焼拔○同五月十六日九月と安房
 徳徳と屋空を於江戶源川八渡の地この帳是月分
 三神の随く○五月七日
 辛卯正徳元年と年號改元○同月三條五條
 舟田橋等修復○同十八日思院御門跡言統



親王薨去○七月三條大橋落其外野の橋
御制札改○八月九日大風所破損○九月十
六有朝鮮之三使來朝大坂幕松岡其日京李國
寺著十月六日著道中御給捕前朱用
也○同月東山長樂寺開帳○十月下旬於大
坂高津福王茂右衛門一代能有○十月十日東
山方無寺忍微和尚遷化○十二月十日申社
江戸神田通月所分出大乾風之平く通町
白銀町本町石町四町目切西端一石橋迄
日本橋燒落東側中橋迄其先吳岸嶋迄
燒抜同日夜寅射鏡火

正徳二年○正月七日秤直段定ノ外
式ノ宛上月四月十四日 女院御所様
榮御同七月三日播磨浦之坊及尼崎迄
大水出○八月十八日の夜浪伏見之水出ル
○同九月三日覺悟寺乃大室古若名代社
表作九月朔日と五日に於て安五同九月五日
大坂河原池糸敷池念仏出来○同九月八日

大坂東中移り九月○上ケ之
○十月十四日 征夷大將軍源家宣公
薨御○十二月大坂安堂寺持松堂寺
普傳也

己三年
年四年
未又年
甲子保元年
丙二仲三七四子又
年云寅七卯八辰九
己十年十一未十二

後

正徳二年己正月吉日

浪花書肆寶文堂開板



